

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 63人

② 算数 63人

5 留意事項

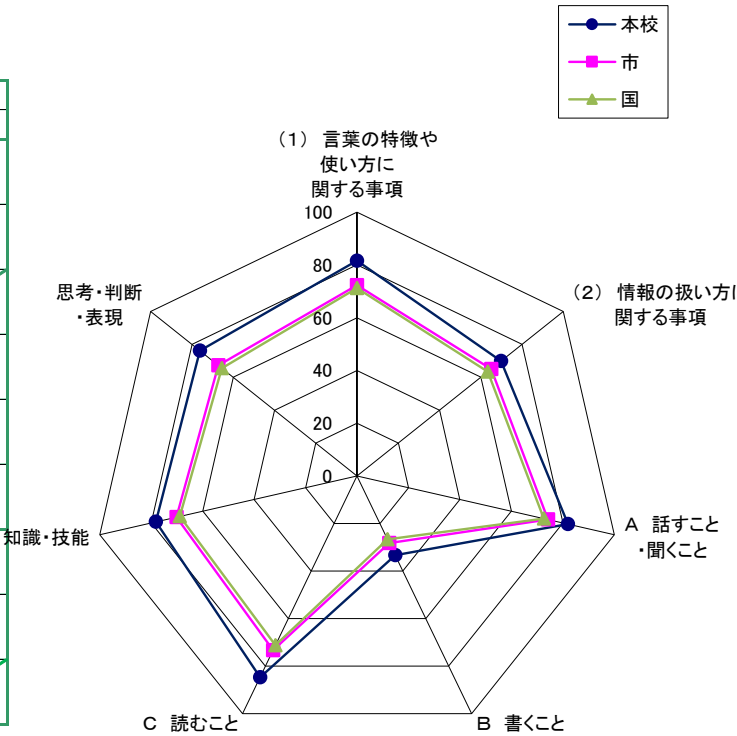
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	81.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	69.8	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.0	74.2	72.6
	B 書くこと	33.3	28.2	26.7
	C 読むこと	84.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	78.2	70.2	68.9
	思考・判断・表現	76.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

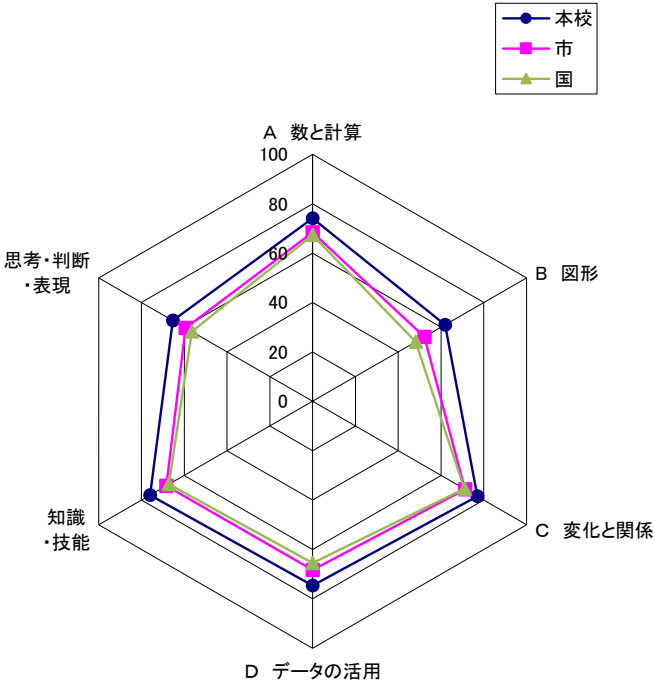
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は、全国平均を10.4ポイント上回っている。 ○漢字を文中で正しく使用する問題の平均正答率は、全国平均を20ポイント以上上回っているものもあり、よく身に付いている。 ●敬語の理解に関する問題では、平均正答率が全国平均を9ポイント上回っているものの、66.7%に留まっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きに関しては、書き順や字形を大切にすることこれまでの指導を、より丁寧に実施していく。 ・相手や場に応じた言葉遣いを考える活動を、国語や学級活動で取り入れ、正しい敬語の使い方への理解を深めていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○平均正答率は、全国の平均を6.4ポイント上回っている。 ○情報と情報など、項目同士の関係性を読み取る力が高い。 ○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができています。 ●文の意味をより正確に読み取る必要がある。	・総合的な学習の時間で資料調べ等の経験を積み重ね、文の意味をより正確に読み取るための力を、身に付けさせていく。 ・言葉の正確な意味を理解させる。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、全国の平均を9.4ポイント上回っている。	・グループでの話し合いやインタビューなどの活動を通して、自分と相手の考えを比較しながら話の内容を捉え、さらに自分の考えをまとめることができるような指導を続けていく。
B 書くこと	○正答率が、全国平均を6.6ポイント上回っている。 ○提示された資料を基に、考えたことを書くことができていた解答例が多かった。 ●問題に提示された資料から分かることを書くことができていない誤答が比較的多かった。	・社会科の調べ学習や、総合的な学習の時間での調べ学習などで、自分の考えをまとめて書いたり、書き表し方を工夫したりするなど、教科横断的な取組を更に充実させていく。
C 読むこと	○平均正答率は、全国平均を13.5ポイント上回っている。 ○文章を読み解く力が高く、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題については、全国の平均を18.4ポイント上回っている。	・読書活動を更に推進していく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.1	68.4	67.3
	B 図形	61.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	77.0	71.2	70.9
	D データの活用	74.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	76.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	65.3	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、全国平均を上回っているものが多い。 ○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に商の意味を考える問題や、加法と乗法の混合した整数の計算では、全国平均正答率を約15ポイント上回った。 ●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題では、全国平均正答率を2ポイント下回った。 ●一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする問題では、全国平均正答率を1.4ポイント下回った。	・計算力の向上を図るために、基礎的な問題を繰り返し解かせる。 ・算数を苦手としている児童については、解決の方策を段階的に説明したり、具体物を使って視覚的に捉えられるようにしたりすることで理解を促す。 ・問題解決の方法について言葉で説明させる機会を意図的に増やすことで、言語化能力の向上を図る。また、授業内での児童同士の話し合いを推進し、説明することに対する苦手意識を取り除けるよう指導する。
B 図形	○平均正答率は、全国平均をすべて上回った。 ○台形の意味や性質について理解しているかをみる問題では、全国平均正答率を13.2ポイント上回った。また、面積の大小を判断し、その理由を記述する問題では、全国平均正答率を20.5ポイント上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかをみる問題では、全国平均正答率を約13ポイント上回ったものの、正答率は38.1%と低かった。	・授業の中で、図形の特徴や問題の捉え方などについて話し合う活動を充実させ、多種多様な見方・考え方を養う機会を意図的に作る。特に解決過程を説明する活動は、中学校で学習する図形の合同や相似の証明と大きくかわってくるので、重点的に指導していく。 ・頭の中でイメージをしにくい児童に対しては、実際に紙を切って動かすなどの体験活動を通して、学びを深めていくよう支援していく。
C 変化と関係	○平均正答率は、全国平均をすべて上回った。 ○百分率で表された割合について答える問題の正答率は、全国平均を12.7ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では、全国平均正答率を3.2ポイント上回ったが、正答率は58.7%と低かった。	・言葉の意味を正しく理解できるように繰り返し授業内で指導していく。特に押さえておきたい重要な語句などは掲示資料を作成し、日常的に目に触れることができる場所に掲示することで児童の意識を高める。 ・授業内で考え方を説明する機会を増やし、割合や伴って変わる2つの数量の関係を言葉で表現できるよう指導する。
D データの活用	○平均正答率は全国平均をすべて上回った。 ○二次元の表から必要なことを読み取る問題では、全国平均正答率を10.0ポイント上回った。 ●複数の棒グラフから情報を読み取り記述する問題では、全国平均正答率を10.5ポイント上回ったが、無解率が7.9%であった。	・グラフや表を読み取る学習だけでなく、読み取った内容を言語化できるように、話し合い活動や根拠を基に説明し合う活動を意識的に行う。 ・社会科や総合的な学習の時間などの授業内でもデータの活用を意識した授業を行うことで、教科横断的に学習をより深めていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問(4)「自分には、よいところがあると思いますか。(本校肯定的回答92.3%)」、質問(5)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(本校肯定的回答96.9%)」に対して、いずれも肯定的回答が全国平均を上回っている。これは、様々な学校行事や児童会活動、学級活動において、児童が主体的に活動できる場を設け、自己肯定感が高まる指導や支援と評価を行ってきたことによると考えられる。

○質問(6)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか(本校肯定的回答100%)」、質問(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか(本校肯定的回答90.7%)」に対して、いずれも肯定的回答が全国平均を上回っている。このことから、児童一人一人に応じた指導支援がある程度効果的に実施できていることが分かる。今後とも児童の変化を見逃さず、学習でも生活でもきめ細かな言葉掛けを行っていきたい。

○質問(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(本校肯定的回答90.7%)」、質問(36)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか(本校肯定的回答92.3%)」において、肯定的回答が全国平均を上回っている。このことから、自分の考えをしっかりと見つただけでなく、様々な立場の意見に耳を傾け、比較することが前向きにできていることが感じられる。学習でも生活でも、児童の話し合いから答えに辿り着く場を大切にしている。今後とも重視していきたい。

○質問(21)「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれの電子図書館をふくむ)にどれくらい行きますか」、質問(22)「あなたの家にはおよそどのくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)」において、図書施設の利用頻度も、自宅にある図書冊数も全国平均を上回っていることから、読書を大切にする家庭環境にある児童が多いことが分かる。自主学習などでも、どんどん活用できるよう支援していきたい。

●質問(26)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(本校肯定的回答66.2%)」は、肯定的回答が全国平均の76.8%よりも10ポイント低い。高学年として、校内のボランティア活動に取り組んだり、1年生の手伝いをしたりと様々な活動を通して充実感を感じているものの、昨今の社会情勢もあり、学校外において何か活動するような場はとも少なかった。今後は地域社会の良さや問題点に気付いたり、自分たちの活動で地域が活性化したりすることを感じられる場を設けていきたい。

宇都宮市立陽東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い	・様々な授業の中で、ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	質問(36)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的回答は92.3%であり、全国平均の81.8%を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書く」に関する問題の正答率が低く、無回答率が、やや高い。	・言語活動の充実。	・国語に関わらず、日頃から自分の考えを文章でまとめる活動を、多く取り入れる。 ・自分自身の考えをもち、話し合う場を意識的に設定する。